

視点 View Point

みや さか ひろ あき
宮坂 博昭氏

長野商工会議所一般商業部会長
株式会社信毎販売センターふれあいネット
代表取締役社長

長野市の卸、小売業は今、人口減少や労働力不足、デジタル化への対応といった課題に向き合っています。一般商業部会では、新年度の始まりにあたり、活動の方向として3つのキーワード「長野市として一体感を持った取り組み」、「インバウンドの取り込み」、「官民連携」を部会で共有しました。これをもとに、皆様の知恵と行動を束ねながら、長野の商いを元気にし、そして商いの現場から「住む人 来る人 ワクワクする街 長野」につながる活動ができればと考えています。

商いの現場から「住む人 来る人 ワクワクする街 長野」につながる活動を

商いをされている皆様の知恵と行動を束ねて

長野商工会議所一般商業部会長に就任されてのご感想、抱負をお聞かせください。

宮坂 当社の前社長の樋口が一般商業部会長をお引き受けし、その任期中に社長が交代しましたので、残りの任期を私が引き継ぎました。先の改選にあたり再びご推挙いただき、経験不足ではありますが、少しでも地域の皆様のお役に立つつもりでお引き受けした次第です。たいへん歴史ある長野商工会議所の部会長であり、部会活動の重要性も常々伺ってきましたので、ますます身の引き締まる思いです。

2022年3月に当社へ来るまで勤めた信濃毎日新聞社で、私は長年記者をしていました。販売局にも10年ほどおりましたが、どちらかと言えばものをつくる側に長くいた私は、商いをされている諸先輩方の目に心許なく映ると思います。それでも、こういうご縁を頂戴したので、私なりの視点から長野市内の商いを元気にする方策を考え、実際に商いをされている皆様の知恵と行動を束ねながら、水野会頭が掲げる「住む人 来る人 ワクワクする街 長野」の実現に向け少しでも力になれたらと思っております。

減少と変化に
技術と「商いの価値」で対応

一般商業部会に関わる業界の状況、中小企業が抱える課題についてどうお考えですか。
宮坂 長野市に限らず全国の課題を表すキーワードが、減少と変化です。
人口が減少し、特に地方では高齢化が進んで、

たらと願っています。

新聞配達網は
地域で安全・安心に暮らす下支え

御社は地域において今後どんな役割を担っていかれますか。
宮坂 2つの役割があると考えています。ひとつは、地域で安心して暮らせる見守り役を続けることです。新聞を毎日お配りする際、たとえば一人暮らしのお年寄り宅のご様子にいつもと違った点があれば、関係者に連絡を差し上げることがあります。新聞の宅配網は人と人とのネットワークであり、安全・安心な暮らしの下支えになっていると私たちは自負しています。

もうひとつの役割は、新聞を通して情報の達人になっていただくお手伝いをする事です。情報溢れかえる今、裏取りされた情報のパッケージである新聞の価値は高まっています。情報過多の時代に向き合い生きていくには、情報の質を見極める物差しと、多角的な視点を備えることが必要です。新聞が地域の皆様にとつての羅針盤となるよう、各所に赴いて新聞の読み方等についてお話しする機会も設けていきます。

PROFILE

1963年10月3日生まれ。県立屋代高校、筑波大学を卒業し、1986年 信濃毎日新聞社入社。長野冬季五輪を招致から終了後まで取材。2010年 販売局販売部長、2020年 取締役販売局長。2022年3月 信毎販売センターふれあいネット代表取締役社長。

購買量は小さくなります。また、人口減少に伴い、労働力の不足も顕在化しました。

変化については、とりわけデジタル化が加速し、電子商取引が盛んになりました。さらに長野市の場合、お隣の須坂市で大規模商業施設の計画が進んでおり、これもお客様の流れを左右する大きな変化と捉えています。

こうした課題への対応が部会活動テーマになります。たとえばデジタル化への対応は、労働力の不足を補う側面もありますので、新しい技術を取り込んで業務の効率化を図り、生産性を向上させることは必要でしょう。ただし、売り手と買い手が直接向き合い、互いの思いを伝え合うなど、対面でしか得られない体験やつながりも、商いが持つ価値です。デジタル技術の導入を進める一方で、リアルな商いの魅力をもう一度クローズアップして、長野市の商業への吸引力にできないかと考えています。

インバウンド需要の取り込みもきちんとやっていくべきです。外国の方がその土地に感じる魅力

は、そこに住む人にとつても良い環境であり、インバウンドの増加は間違いなく地域で暮らす方にもプラスになります。そして、内にも外にも魅力あるまちは、地域の中で人と物とお金の流れが自ずと循環します。商いをしている民の力と社会基盤を整える官の力を連携させ、たとえば住む人も来る人も歩きたくなるまちをつくるのはどうでしょう。

その際、善光寺門前の商店街を核としながら、他の商店街も含めた長野市一体で、歩いて楽しいまちをPRできたら、市内観光の回遊性も高められます。ついでに、こうした取り組みの根拠として、「長野のお店つて気持ちがいいな」と感じていただける商いの風土を醸成することも大切だと思います。

新年度の始まりにあたり、部会の中で共有した3つのキーワード「長野市として一体感を持った取り組み」、「インバウンドの取り込み」、「官民連携」をもとに、商いの現場から「住む人 来る人 ワクワクする街 長野」につながる活動ができ

DATA
株式会社信毎販売センターふれあいネット
【設立】1969(昭和44)年
2015(平成27)年、合併で現社名に
【業務内容】信濃毎日他日刊新聞・同書籍販売、折込広告、損保代理店、旅行代理店
【所在地】長野市南長池138
【TEL】026-251-1500

横顔

趣味はクラシック音楽。聴くだけでなく中学時代から演奏に親しみ、現在、長野フィルハーモニー管弦楽団の団長とコントラバスのパトリナーを務める。